

板倉伊賀守勝重候信書

尚々我壺之儀是亦可然様頼入候、以上

禁中御茶之儀付而度々示預候、態々被入御念御調專一候、其許御
仕舞之時分以面可申承候、恐々謹言

板 伊賀守

卯月廿八日

勝重 花押

尾崎坊 床下

土井大炊頭利勝候信書

御書中殊二為年甫之御祝言茶筥二贈給候、誠以喜悦之至候、猶期
後信候、恐々謹言

土 大炊

正月廿二日

利勝 花押

尾崎坊宗庵

一書申入候、然者 仙洞御物之御壺当年其方江可被詰上旨、御茶
奉行衆被仰出候間、左様二可有御心得候

花御壺

御茶入日記

一極上 半廿

むかし

御詰 七斤半

右之御茶御用意可然候、尚明後廿五日二以面談可申入候、恐々
謹言

五月廿三日

土山淡路守 花押

尾崎坊

御中

藤木志摩守 花押

一筆令啓達候、今度 禁裏御茶被仰付候、就夫唯今迄上林門太郎
被詰上候延命御壺弥可被仰付旨二付、則入日記書付差遣候、此通
之御茶其許二用意有之候而被詰上候事罷成候哉、此外二其許家二
袋茶可有之候間、品々書付可被差上候、右之両様委細可被示聞候、
為其如是、恐々謹言

四月廿六日

小佐治岩見守 花押

矢部筑後守 花押

尾崎坊有庵老

慶長七年家康公御文章

聞茶早々到来祝着之至候、一段能覺候、猶阿部伊予守可申候、恐
々謹言

卯月三日

家康 花押

尾崎坊

被入念聞茶早々到来祝着之至候、猶追而可申候、恐々謹言

三月廿五日

家康 花押

尾崎坊

慶長拾年秀忠公御文章

被入念早々聞茶送給候、祝着之至候、猶面之時分可申候、恐々謹

言

三月廿五日

江中納言

秀忠 花押

尾崎坊

慶長十年秀忠公御文章

又一之茶壺一送被下祝着之至候、尚期後音候、恐々謹言

三月廿五日

江中納言

秀忠 花押

尾崎坊

細川三齋侯書面

遠路為見舞使札殊二三休より茶巾五ツ三入より柄杓二本到来、何
モ令満足候、京壺鍋島信濃殿へ口を切候へハ、信州御申にハぬし
の壺之儀者不及申家中之壺モ不残三休にて御詰候由御申者我等茶
之よきを殊之外満足に存候間、其後御暇出候二付、様子不申登○
我等儀信州も如御存知無残所仕合にて尚御地迄罷立上候間、万期
参時候、宜敷○返事一通二令申候、恐々謹言

閏十一月四日

三齋

宗立(青肉)

上林三休老

上林三入老

御返報

元和元年五月十一日彦根侯軍師岡本半助氏書翰

一書申入候、御茶御仕舞被成候哉、今度大坂両度之合戦掃部被得
勝利候、可御心安候、大阪無程落城、掃部奉行ニテ秀頼御服めさ
れ昨日伏見歸陣仕候、天下静謐各迄可為御満足候、仍掃部壺モ頓
而為持可進候、内々御茶之御心懸被成下候、何も期面上之時、恐
々謹言

五月十一日

岡本半助 花押

藤 三人 様

尚々我等義壺詰り候下此月二御越候而可被下候、次二輕薄二候
得共、鯉五連任到来進上如此候

同年五月十二日井伊掃部頭書翰

為歸陣御見舞御飛札殊二挽茶并鱸巻送給忝存候、如仰大阪早々落
城天下御静謐目出度候、何も期面上之時候、恐々謹言

五月十二日

井 掃部 花押

藤村三人老 返報

御茶御用未済中ハ毎年左ノ禁札ヲ揭示セリ

一御物御壺出行無之内新茶出スヘカラス

年月日

但時ノ代官ヨリ一基上林掃部之丞ヨリ一基

御物御壺蔵構東西拾五間南北二拾壹間半

御土蔵 老ヶ所 桁行三間 瓦葺
梁行三間

是ヲ宇治郷字里尻へ建設ナリタリ

宇治三仲間御茶師

由緒書写

一御物御茶師之儀者、從往昔名々御茶仕立罷在候処、東照宮様御代御物御壺二調進被仰付候二付、御物御茶師卜称ス

御袋御茶師之義者、從往昔名々御茶仕立罷在候処、東照宮様御代年月不知御茶御用被仰付相勤候、元和元年大坂御凱陣之砌、二条御城奉伺御機嫌、為御祝儀御袋茶二宛名々献上仕候処、土井大炊頭殿

御披露二テ御目見被仰付、格別御吉例二被為思召、未代此儀取失不申様難有蒙上意、其節罷出候九人之者、毎年清精御袋茶二宛紅葉山

御宮へ献備仕候儀二御座候
東照宮様堺ヨリ三州へ御通被遊候節、本多佐渡守様御差図を以当仲

ケ間河崎德意先祖又左衛門木津川西より江州信楽迄御案内就仕候、御目見被仰付神妙之至卜蒙上意拝領物仕纏御綾御通御茶御用被仰付

候事
則御茶各家へ更ニ左ノ御用ヲ命セラレ、に後恒例トナル

禁裏 仙洞 御茶壺之事

禁裏 仙洞 御茶壺之事

禁裏御所御物

一延命御壺 半十五 御詰三斤半

上林六郎

一石上御壺 半二十五 御詰五斤

上林又兵衛

右隔年二被仰付候

一細谷川御壺 半十 御詰五斤半

星野宗以

右每年被仰付候

一嶋津御壺 半二十五 御詰六斤半

上林三八

一無銘御壺 半十五 御詰四斤七

木村宗二

右隔年被仰付候

東宮御方工被為付候御物

一緑御壺 半十 御詰二斤半

星野宗以

右每年被仰付候

右者御壺壹ツニ付黄金壹枚宛

一別儀御茶八斤入壺壺

尾崎坊有庵

一同 五斤入壺壺

右同人

一同 三斤入壺壺

上林三八

一同 三斤入壺壺

木村宗二

仙洞御所御物

一玉簾御壺 半二十五 御詰四斤半

星野宗以

右者每年被仰付候

一松枝御壺 半廿五 御詰三斤半

上林又兵衛

一八尾御壺 半廿五 御詰三斤一

尾崎坊有庵

一無銘御壺 半廿五 御詰壹斤一

上林三八

右御壺三ツ三ヶ年廻り二被仰候

右者御壺壹ツ二付黄金壹枚宛

一別儀御壺五斤入 木村宗二

右者每年被仰付候

右 禁裏・仙洞御所御壺一緒二被仰付候、御執次御 子所各家江御

入来茶詰御立会有之候事

関東御壺宇治御出行相济候而、星野宗以ヨリ京都へ御案内申上、其

後日限等被仰出候、御壺宗以宅二御着名々へ相渡御茶詰上ヶ当日御

所へ上ル事

徳川家御物御壺御銘

福海御壺 半二十 御詰六斤

袖袂御壺 半二十 御詰五斤

旅衣御壺 半二十 御詰三斤半

藤瘤御壺 半二十 御詰四斤五

太郎五郎御壺 半二十 御詰三斤半

虹御壺 半二十 御詰五斤半

埋木御壺 半二十 御詰五斤半

寅申御壺 半二十 御詰六斤三

志賀御壺 半二十 御詰五斤半

日暮御壺 半二十 御詰五斤三

右御壺之内年々御壺三ツ宛御登二相成、式ツ者六郎又兵衛一ツハ御物

御茶師拾一人廻り二被仰付候事

年番ノ方

御物御壺 御銘不定

禁裏 新御壺 半二十 御詰三斤

御進献 新御壺 半二十 御詰三斤

日光 新御壺 半二十 御詰五斤

久能 新御壺 半二十 御詰四斤五

紅葉山 新御壺 半六 御詰三斤六

日光 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤半

御簾中新御壺 半二十 御詰三斤半

右御壺一ツ黄金一枚宛被下置候

京都 新御壺 半六 御詰三斤半

御夏切新御壺 半五 御詰三斤 二壺

極昔御茶三十斤 六斤入 二壺

折鷹御煎茶六拾一斤半 五斤入 同

三斤入 同

右極昔御茶折鷹者年々斤数増減御座候

外献上御試御壺一壺 但 半三 御詰三斤

献上御茶湯御壺十壺 但 半三 御詰三斤

右御壺十一壺者毎年献上仕候

年番方詰上之事

非番ノ方

御物御壺 御銘不定

西丸 新御壺 半二十 御詰三斤半

御召 新御壺 半二十 御詰三斤半

仙洞 新御壺 半二十 御詰三斤

上野 新御壺 半二十 御詰三斤七

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤半

増上寺 新御壺 半二十 御詰三斤半

右御壺一ツ二黄金壹枚宛被下置候事

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

御靈屋 新御壺 半二十 御詰三斤

夏切新御壺 半五
御詰貳斤

極昔御茶拾九斤 五斤入壺壺
四斤入貳壺
三斤入貳壺

折鷹御煎茶五拾二斤 六斤入貳壺
五斤入七壺
四斤入壺壺

右献上御試御壺壹壺 半三
御詰貳斤

献上御茶湯御壺拾壺 半一
御詰

右御壺拾壺ハ毎年献上仕候
非番ノ方詰上ノ事

上林六郎御茶方
御用掛家来

中村弥右衛門

平尾十兵衛

吉井太郎左衛門

上林又兵衛御茶方
御用掛家来

西川勘次

永山市郎

右之者御茶御用向取扱仕候二付、御通御茶御用被仰付候

三仲ヶ間御茶師ノ訳

御物御茶 十一人名前

上林味下

上林春松

上林平入

上林貞甫

酒多宗有

尾崎坊有庵

星野宗以

上林三人

堀 真朔

長茶宗味

辻 善徳

右之者御物御壺順番ニ被仰付候二付、御物御茶師卜唱申候

御物御壺 御銘不定 壺壺

御召新御壺 半二十 御詰三斤半 八壺

上野 新御壺 半二十 御詰三斤半 二壺

×拾壺壺

右之御壺御物御茶師十一人工回りニ御詰被仰付、黄金壺枚宛被下置候

上野 新御壺 半二十 御詰三斤半 上林味下

増上寺 新御壺 半二十 御詰三斤半 上林三人

右之御壺前々より兩人工御詰被仰付黄金壺枚宛被下置候

増上寺 新御壺 半十五 御詰三斤半 星野宗以

右之御重御靈屋御用ニ付御物御壺列ニ御座候得共、黄金詰ニテハ無之
御詰ニ被仰付、前々ヨリ星野宗以詰上來候事

竹田紹清

献上御茶半式袋ツ、右九人ヨリ紅葉山御宮江半式袋ツ、不残詰加献上
仕候ニ付御袋御茶師卜唱候

日光 新御壺 半二十 一壺
御門跡 御詰四斤半 一壺

御献備 新御壺 半五十 一壺
御用 御詰式斤 一壺

右御詰

右式口ノ御壺八年々罷登り候御数寄屋頭宇治逗留中宿之儀十一人廻
り宿相勤候ニ付右宿番之者へ被仰付候

右御壺御袋御茶師九人江被仰付候
御通御茶師人名

西丸御用

別儀御茶五斤入拾壹壺

別儀御茶四斤入式壺

右別儀御茶御物御茶師十一人江被仰付候

献上夏切御壺十一壺 半三 御詰式斤

右御物御茶師十一人ヨリ毎年献上仕候

御袋御茶師人名

上林牛加

祝 甚兵衛

八嶋宗応

上林道庵

堀 正法

木村宗二

竹田紹旦

佐野道意

竹田道雲

御通御壺 九壺 但 極揃御茶五斤入
西丸御通御壺 式壺 前同断 五斤入

御通御茶師人名

片岡道二

西村了以

河村宗順

橋本玄可

馬場宗円

森本道加

喜多立玄

菱木宗見

宮林有斎

新 長左衛門

梅林宗雪

森江惣左衛門

永田七郎右衛門

御通御壺拾九壺 極揃御茶

六斤入六壺
五斤入十一壺
四斤入五壺

西丸御用

御通御壺 式壺 極揃御茶四斤入

臨時御用

御通御壺 四壺 極揃御茶三斤入

右御壺御通御茶師十四人江廻りニ被仰付候

但シ御壺銘々ヨリ極上半ニ袋ツ、詰加献上ス

御通御壺 二壺 極揃御茶五斤入

喜多川太郎左衛門

藤科金兵衛

此者兩人ハ太郎左衛門ハ上林三入手代、金兵衛ハ星野宗以手代ニテ別席ニ御座候、右手代ニテ御通御用被仰付候ハ、前々ハ上林味ト・星野宗以・上林三入三軒ニテ御数寄屋頭宿持切相勤候ニ付、手代右宿用骨折候義ニ付、右御用御数寄屋頭申付候ニ付、右仕来り当時ニテモ被仰付候

右兩人ハ御通御茶師ニテハ無御座、仲間外席ニ御座候得共、右御壺兩人ハ壺壺ツ、被仰付候、尤仲ケ間外ニ御座候間御茶目録モ右兩人ハ別目録ニテ都テ御帳面類モ別ニ認メ申候

御物御茶師仲ケ間 十一人

御袋御茶師仲ケ間 九人

御通御茶師仲ケ間 十四人

合三拾四人

抑モ封建制度ニシテ未タ郡県トナラサルヤ、日本全国諸侯方ニ於テモ徳川三百年太平ニ馴レ、大ニ茗園ニ志シ從テ茶礼ノ万般ニ至ルモ、大ニ盛大ヲ来セシヨリ其需用茶ノ如キモ、産地宇治ニ揚サルヲ得サルヨリ、遂ニ宇治ノ茶師四十九名等ニ一國詰ト称シテ將軍御物御壺出行濟ノ上、又諸国大名ノ茶ノ調進ヲ命セラル、事、例トナレリ、上林味ト

ハ肥後一円以下之レ倣フ、依テ我宇治ヨリ日本全国へ輸出スルノ、益々盛大ヲ来セリ、一新ノ際ニ至ルマテ依然タリ

番号	資料名	年月日	備考		
33203	金千二百疋(包紙)				
33204	金二百疋(包紙)				
333	茶経 上	宝暦 8. 4	宝暦 8 序		版 豎
334	喫茶養生記 全	元禄 7. 春	琶江病隠無涯 書籍御経類調進所出雲路文次郎 上林春松宛上林松寿送り状を付す		版 豎
335	新民謡字治音頭(レコード)	1963			
336	新貨条例	明治 4. 5	大蔵省 平成8年購入		版 豎
337	(生糸繭茶共進会申告書諸式につき布達)	明治12. 6			版 豎
33801	(出品申告書)	(明治12)	上林春松		
33802	(明治14年第二回内国博覧会出品申告書)	(明治13. 11. 2)	上林春松		豎
33803	高知県共進会出品茶之記	明治17. 10. 17	上林春松→京都府勸業課		豎
33804	(関西共進会出品届等綴)	明治19. 5	上林春松→京都府知事北垣国道		綴
33805	茶申告書(関西連合共進会)	明治19. 9	上林春松		豎
33806	(出品書式)				版 豎
33807	(共進会申告書)		上林春松		豎
33901	共進会報告 製茶部	明治12. 11			版 豎
33902	明治十二年共進会報告 共進会創設主旨	明治13. 5	勸農局・商務局		版 豎
33903	共進会報告 製茶ノ部	明治13. 6	勸農局・商務局		版 豎
33904	(共進会報告 製茶ノ部)	明治13. 6	勸農局・商務局	表紙欠	版 豎
340	共進会申告書	明治12. 8	上林春松		豎
341	(印度風紅茶製造伝習卒業証書)	明治12. 2. 19	勸農局→上林春松		
342	茶ノ沿革	(明治)			豎
34301	千八百七十六年万国博覧会審査ノ報告書	(明治9)			豎
34302	(千八百七十六年万国博覧会賞状等写)	(明治9)			豎
34401	明治十二年共進会製茶審査報告 第二号	審査点数表	明治12. 11. 12		版 豎
34402	明治十二年共進会製茶審査報告 第三号	審査評語	明治12. 11. 12		版 豎
34501	明治十六年第二回製茶共進会審査報告書	明治17. 9. 22	農務局		版 豎
34502	(製茶共進会審査概評写)				豎
346	(製茶共進会出品書類綴)	明治16. 7			豎
34701	(英国万国発明品博覧会関係書類綴)	明治18. 1			豎
34702	(英国万国発明品博覧会出品届)	(明治18)			豎
348	(関西共進会関係書類綴)	明治19			豎
349	第四回内国勸業博覧会茶出品解説書	明治28. 1. 18			綴
350	第十回関西府県連合共進会要録		京都府		版 豎

番号	資料名	年月日	備 考
323	二番御壺御追加入日記	未. 8	上林
324	日光准后新御壺御茶入日記	丑. 5	上林平入 裏面茶壺前札「尾州様御召初むかし」
32501	稲荷神社献茶入日記	明治33. 2. 11	茶元上林春松
32502	稲荷神社献茶入日記	明治32. 2. 14	献茶壺元上林春松
32503	御茶入日記	明治31. 2. 21	献茶壺元上林春松
32504	[]茶入日記	明治30. 2. 21	献茶壺元上林春松
32505	御茶入日記	明治29. 2. 18	献茶壺元上林春松
32506	御茶入日記	明治28. 2. 10	献茶壺元上林春松
32507	御茶入日記	明治27. 2. 16	壺元上林春松
32508	御茶入日記	明治26. 2. 8	壺元茶師上林春松
326	御茶入日記	平成 1. 5	上林春松 ハレパネ装
327	御国御用錫御壺御茶入日記	午. 8	詰主河村宗順
328	御召御試別儀之御詰(茶壺前札)		
32901	藤瘤御壺(茶壺前札)		
32902	御定式一番御壺(茶壺前札)		
32903	御定式二番御壺(茶壺前札)		
32904	御定式三番御壺(茶壺前札)		
32905	四番御壺(茶壺前札)		
32906	御召新御壺(茶壺前札)		
32907	戌別儀之御壺(茶壺前札)	戌	
32908	誠順院様新御壺(茶壺前札)		
32909	御献備御夏切御試御詰別儀(茶壺前札)		春松
33001	御定式二番御壺(茶壺前札)		
33002	一番御壺(茶壺前札)		
33003	二番御壺(茶壺前札)		
33004	三番御壺(茶壺前札)		
33005	四番御壺(茶壺前札)		
33006	四番御壺(茶壺前札)		
33007	阿州様御定式三番四番袋物(茶壺前札)	丑. 9	
33008	詰主上林(茶壺前札)		
33009	詰主上林(茶壺前札)		
33101	いノ鷹(半袋)		
33102	祖母昔(半袋)		上林春松
33103	古祖母昔(半袋)		上林春松
33104	古祖母昔(半袋)		上林春松
33105	極上(半袋)	戌	
33106	(無地半袋)		
33201	覚(金子目録)		33202. 03の目録
33202	金五千疋(包紙)		